「JGAゴルフジャーナル」 JUN 2011 Vol.89

JAPAN GOLF ASSOCIATION

JGA Golf Journal

巻頭特集

松山英樹が手にしたシルバーカップと セベ・バレステロスからの手紙

～史上初、マスターズでの日本人アマチュア選手の快挙～

特集1

ゴルフ界がひとつになって日本を支える

～グリーン・ティー・チャリティー～

巻末特集 セベ・バレステロス追悼

Severiano Ballesteros

“スペインの星”セベ・バレステロスを偲ぶ

財団法人 日本ゴルフ協会

日本のゴルフが、日本のチカラに。
Green Tee Charity

巻頭特集

松山英樹が手にしたシルバーカップとセベ・バレステロスからの手紙

～史上初、マスターズでの日本人アマチュア選手の快挙～

Hideki Matsuyama

三田村 昌鳳（JGAオフィシャルライター）

松山英樹は、いまでも、ふとマスターズ最終ラウンド最終ホールを思い浮かべることがあるという。

「思い出すたびに、いまでも鳥肌が立つんですよ。すごかったですねぇ。これまでの人生でいちばんすごかったと思います」と語った。けれども、松山は鳥肌が立ったけれど、次の瞬間が並の選手の感覚とは、違っていた。

「これを（残り2メートル弱）入れなきゃ。絶対、入れようって思ったんです」と語った。

松山英樹…彼は、1992年2月25日生まれ。日本人アマチュア選手として初めてマスターズの出場権を獲得し、オーガスタのゲートをくぐった選手である。そればかりか、第1ラウンド 72のスコアで31位タイと好調な出だしだった。

初めてオーガスタで練習ラウンドをした日、松山のスコアは87。練習ラウンドでのベストスコアは76だった。それが、いざ試合になると、第1ラウンドが72、第2ラウンドが73。そして第3ラウンドには68という好スコアをマークしたのである。もし最終18番ホールの、わずかに外れたバーディパットが決まっていれば、過去に中嶋常幸がマークした日本人選手最少スコア 67と並ぶ快挙を達成するところだった。

試合後、なぜ練習と試合でこんなに（スコアが）違ったのかという質問に、松山は笑いながら「う～ん、それは試合だからだと思います」と答えた。

「いつもそうなんですけど、試合が始まると良くなるんですよ（笑）。今回も、プレーのこと以外は、なにも見えなく（余計なことを感じなく）なって集中できたんですよ」

そうして、こう語っていた。

「（マスターズだからという）特別な緊張感はなかったですね。もちろん、マスターズ出場が決まってから、ここに来るまでのほうが、緊張というか、あー、ほんとにマスターズに来ちゃったんだという感覚はありましたけど、いざ試合になったら、そういうのは全部忘れていましたね」と語った。第1ラウンドのメディアでの囲み会見でも、「（1番ホールでの）緊張？ うーん、なかったですね。ティーショットが、どこに行くか分からなかったので。不安とかもなく、真っすぐ打ちたいと、それだけしか頭にありませんでした。（第1打が、バンカーにいって）仕方がないと思いました。下手くそだから。パーパットが入って、凄く楽になりました」

見ていると松山のゴルフは、無理をしていなかった。素直で、ある意味とてもアマチュアゴルファーらしいプレーをしていた。それが松山の言う「下手ですから」という言葉に繋がっているのだと思う。雑念を払うことが上手だ。あるがままの自分を素直に出せる能力と、いざゲームの中に身を置くと、言葉は悪いが、素晴らしい鈍感力を発揮する。それが松山のゴルフの強さだと思った。

マスターズの出場権がかかったアジア太平洋ゴルフ連盟が主催し、マスターズ委員会とR&Aが協力するアジアアマチュア選手権。これは昨年の大会で2回目。優勝者には翌年のマスターズと、全英オープン最終予選の出場権を与えるという特典がある。

「その翌週の日本オープンに合わせて練習を積み重ね、調子を上げてきていたんです。そしたら、試合が始まると、あ、いい感じだということになって、勝ちました（笑）」

その翌週の日本オープンも優勝争いをした。あわや第1回大会の赤星六郎以来2人目のアマチュア選手の優勝者が誕生するかという勢いだった。

「いやー、まだまだ僕は下手ですから（笑）」と照れ笑いをする。

それから、半年後のマスターズ……。

「あっという間でもあったけど、長いな、と感じた時期もありました。特に、年末から年始にかけては、長く感じました」

マスターズ第1ラウンド。松山は、15番ホールを終えて3アンダーパーで回っていた。誰もが、松山本人もが、このスコアで回っているということに、驚きを感じていた。それもそのはずで、松山がオーガスタにやってきて初めて練習ラウンドをしたときは87を叩いていたし、ベストスコアは76だった。だから、残り3ホールの時点で3アンダーパーは、まさか、という驚きしかなかったのだ。

Hideki Matsuyama

「16番ホールにあるボードを見て、うわ〜って思って、載ってる載ってる、みたいな感じで、そういう気持ちで浮ついたら、ボギー、ボギー、ボギーでした（笑）。いや油断したって事じゃないです。特に17番の2打目は、下手くそだな〜って、自分で笑っていたんですよ」

さまざまな心境が、マスターズの試合前には行き交っていた。それはマスターズに出場するという武者震いも含んでいたし、未曾有の大震災で、東北地方が大打撃を受け、出場するか否かという選択まで含まれていた。

「自分は、アマチュア選手として出場権を得て、招待されたわけですから、自分一人の問題ではなく、やはり自分がそこで精一杯戦うことも大切なことだと思い出場させて頂きました」と語った。

松山は、第2ラウンドを73でまとめて、予選通過した。アマチュア選手としては、アマチュア世界ランキングでナンバーワン、昨年の全米アマ選手権に勝ったピーター・ユーラインも含めて6名が参加していた。そして松山英樹ただひとりが、予選通過を果たし、その時点でローアマチュアが決定したのである。

日本人アマチュア選手の活躍は地元紙The Augusta Chronicleでも大きく取り上げられた。

Choi again had
South Korean couldn't match playing partner
Matsuyama earns amateur accolade
Palmer energized by roars f

「ただただ、アマチュア（ローアマ獲得者）として、恥ずかしくないプレーをしようとしか考えていませんでした」

松山のゴルフは、歯切れがいい。迷うという様子を、少なくとも外側から見ていて感じさせない。直感的に感じたまま攻めているのではないか、と思わせる。だから第3ラウンド、68をマークしたときのコメントの中でも、なんでこんなによくなったの？ という記者の質問に「自分でも理解不能です」と答えてしまう。

松山が「生涯最高って、いってもまだ19年ですけど、僕のこれまでのゴルフ人生の中で、最高のショットは、第3ラウンドのオーガスタの16番、パー3でピンそば10センチぐらいのところに落ちたショットですね。入っとけばよかったのにって思いましたよ（笑）。ホールインワンは、昨年の日本オープンのあとの部活のラウンドで出した、1回だけですから」と答えていた。

松山の鈍感力は、無意味な、つまりゲームに必要以外の雑念や過剰な思考を停止させる能力である。フォーカスできる能力とでもいうのだろう。

マスターズ最終ラウンド。松山は、例の鳥肌が立ったという最終ホールで、見事なバーディを決めて74でホールアウトし、27位タイで終了した。4日間、イーグルはひとつもないけれど、バーディが16個。ボギーが15個。パーが41個……ボビー・ジョーンズのいうオールドマンパーなゴルフをやってのけたのだと思う。

夕暮れ時……マスターズの表彰式は、太陽がオーガスタの森に消えていく僅かな時間に行われる。日本のゴルフ史で初めてその表彰式の舞台に立った。歴史に残る瞬間だった。

松山は、ローアマチュアに与えられるシルバーカップをしみじみと眺めていた。その感動を忘れないだろう。

そしてもうひとつ、松山を感動させる出来事があった。帰国後に手渡された1通の手紙である。差出人は、セベ・バレステロスだった。病床の、いやおそらく最後の手紙となったであろうセベからの祝福の手紙。病床の中、テレビでマスターズ観戦をしていて、この日本の若者、アマチュア選手の清々しいプレーに若き日の自分を重ねていたのかもしれない。

昨年の日本オープンでは首位に3打差の3位タイに入り堂々のローアマチュアを獲得。

昨年、日本で開催された第2回アジアアマチュア選手権で優勝しマスターズへの切符を手に入れた。

世界から松山に賞賛メッセージ

アジアアマチュア選手権主催・協力の3団体からマスターズでのプレーぶりに対する賞賛のメッセージが届いた。ローアマ獲得の結果はもちろん、母国への気持ちを込めての態度を、世界中が絶賛した。

APGC

" Hideki Matsuyama was a deserving winner of the Asian Amateur Championship (AAC) at Kasumigaseki C.C. held last October. He played well in all 4 rounds and kept his nerves and composure during the fourth round to win the event. He is a long hitter with a very good short game and has a calm disposition. He was an impressive winner and showed his potential again at this year's Master's at Augusta when in a field of leading American and other international amateurs, he was the only amateur to make the cut, finishing the tournament with a very good score. With his good behavior, he was a good representative of our AAC, and I felt very proud of him and of our AAC when he was awarded the low Amateur Trophy at the prize giving."

Thomas M.L.Lee,
Chairman, Executive Committee,
Asia Pacific Golf Confederation.

松山英樹選手は、昨年10月に霞ヶ関カンツリー倶楽部で開催されたアジアアマチュア選手権（AAC）に勝つべくして勝ったと言えるでしょう。4日間を通して素晴らしいゴルフを展開し、最終日も冷静沈着なプレーで優勝を果たした松山選手は、ロングヒッターでありながらショートゲームにも非常に優れ、冷静な精神力も兼ね備えています。また今年のマスターズでは再び自らの高いポテンシャルを発揮し、アメリカや世界のトップアマチュア達を抑えてアマチュア唯一の予選通過を達成。非常に素晴らしいスコアで見事に4日間を戦い抜きました。品行方正な松山選手はまさにAACの代表として相応しい選手であり、マスターズの表彰式でローアマチュア賞を授けられる彼の姿を見て、私はとても誇らしく思いました。

トーマス・リー
アジア太平洋ゴルフ連盟 チェアマン

MASTERS

While playing during the 2011 Masters, Hideki Matsuyama represented his family, nation and the Asian Amateur Championship with the highest level of honor and dignity.
His brilliant performance left all of us at the Masters Tournament beaming with pride and reaffirmed our commitment to the Asian Amateur Championship and the development of the game of golf.
As his dream of playing in the Masters was fulfilled in April, Matsuyama inspired many more dreams of aspiring amateur golfers throughout Asia-Pacific.

Billy Payne
Chairman of Augusta National Golf Club and
the Masters Tournament

松山英樹選手は、彼の家族と母国日本、そしてアジアアマチュア選手権を代表して、最高レベルの名誉と尊厳を携えて2011年マスターズに出場しました。彼の目覚ましい活躍を目の当たりにして、マスターズトーナメントに携わる我々すべては誇らしげに微笑み、アジアアマチュア選手権ならびにゴルフ発展に対する我々の献身を再確認いたしました。マスターズ出場という自らの夢を実現した松山選手は、アジア太平洋地域のアマチュアゴルファー達に更なる夢と希望を与えたのです。

ビリー・ペイン
オーガスタナショナルゴルフクラブ、
マスターズトーナメント 会長

R&A

It has been a pleasure to witness Hideki Matsuyama's rapid progress in the game of golf. I was present at Kasumigaseki Country Club when he won the Asian Amateur Championship so convincingly last October and also at Augusta for the 2011 Masters Tournament where he was the leading amateur, finishing one under par with a closing birdie on the 72nd hole.
He is not only a very fine golfer, but his on-course demeanour and behaviour are excellent models for others to follow.
I was particularly impressed by his short speech at the Amateur Dinner prior to the Masters Tournament which he delivered in just the right way.
He is one of golf's brightest prospects.

Peter Dawson
Chief Executive
The R&A

松山英樹選手の急速な成長を目の当たりにできたことは、私にとって喜ばしい限りです。昨年10月に霞ヶ関カンツリー倶楽部で行われたアジアアマチュア選手権では、彼の堂々たる優勝に立ち会い、今年のマスターズでも、最終日最終ホールでバーディを奪い通算1アンダーパーでローアマチュアに輝いた彼の勇姿を拝見しました。彼は非常に優れたゴルファーであるだけでなく、コース上での彼の立ち振る舞いは誰もが見習うべき最高の手本です。
また私が特に感銘を受けたのは、マスターズの開幕に先立って催されたアマチュア・ディナーで彼が披露した、短いながらも実に見事なスピーチです。
松山選手は、いまゴルフ界に輝く最も明るい希望のひとつです。

ピーター・ドーソン
R&A チーフエグゼクティブ

特集１

ゴルフ界がひとつになって日本を支える
～グリーン・ティー・チャリティー～

**東日本大震災から1ヶ月も経たないうちに発表された
ゴルフ界がひとつになっての大きな動き、
グリーン・ティー・チャリティー
～日本のゴルフが、日本のチカラに～。
ゴルフサミット会議で毎年集まる16団体の他に
4団体を加えた20団体がひとつになっての活動が、
いよいよ具体化しつつある。
その詳細を、事務局でもあるJGAの永田専務理事に聞いた。**

財団法人日本ゴルフ協会
専務理事　永田 圭司

── グリーン・ティー・チャリティー活動発足会見から約3ヶ月。まずは活動開始のきっかけから話して頂きましょうか。

永田 震災後、安西会長が非常に被災地を心配されて『息が長くて規模の大きい活動を考えるべき。JGAだけじゃなく、ゴルフ界としてしっかりしたメッセージを発信しよう』と言われました。そこで活動の核としてゴルフサミット会議の各団体に声をかけ、さらに日本学生ゴルフ連盟、日本高等学校ゴルフ連盟、日本ゴルフ場支配人会連合会、日本ジュニアゴルファー育成協議会の4団体にも呼びかけて、3月末に各団体が集まったんです。すでに色々な活動を始めていた団体もありましたが、それも含めてゴルフ界としてのメッセージを発信するという目的もあって会見を行いました。

── 会見を行った効果はありましたか？

永田 ゴルフ業界の総合キャンペーンという意味でも、情報を一元化するという意味でも、全体の目標をはっきりさせるという意味でも効果はあったと思います。

── その後の動きはどうなっているのでしょう？

永田 グリーン・ティー・チャリティーという傘の下で行われてきたことは、各トーナメントをチャリティーイベントにして頂いたり、選手の協力により賞金からのチャリティーなどがあります。すべての団体が義援金箱などを設置したりしてお金を集めて下さったんです。それ以外にもゴルフ用具メーカーが様々な形で協力して下さいました。たとえば『ボール一個につきいくらチャリティー』という形で。練習場やクラブでも様々な形で集めて頂いた。それらすべてが5月末ですでに約10億円くらいになっています。これらは全額、義援金として日本赤十字社に寄付されています。

── 新しい動きは？

永田 こうして一義的な被災された方々への直接的な義援活動は立派に果たせてきたかなと思っています。そろそろ第2ステージに移るタイミング。もっと幅広く、長いスパンでの支援活動に移る時期ではないでしょうか。8月ころに参加20団体がもう一度集まって、9月にはそちらをスタートさせたいと思っています。

── 支援活動ですか？

永田 そうです。義援も続いていきますが、ゴルフ界のためにお金を集めて使う支援活動も視野に入れていく。これは決してエゴではなく、各業界がこうしてきちんと経済的に成り立つことで、大きな復興支援になるんです。実は、すでにR&AやUSGAから寄付金を頂いているのですが、欧米では義援と支援の区別がはっきりしている。彼らは支援活動に使うことをすぐに理解してくれました。サッカーの世界でもFIFAが4000万円をJビレッジのために寄付するとのことですが、それと同じことです。

ゴルフ関連20団体がひとつになって日本のために動いたグリーン・ティー・チャリティー。JGA安西会長の挨拶を皮切りに、各団体が日本のチカラになることを表明した。

── 具体的には？

永田 支援活動の手始めとして、ゴルファーの皆様がチャリティーをしやすい展開を考えています。すでに4月4日の立ち上げ会見でもお話ししたのですが、グリーン・ティー・チャリティー独自のティーとバッジ、クリップマーカーを販売します。

── いつのことですか？

永田 まず7月にティーを売り始める予定です。500円（税抜、20本入り・カン入り）と200円（税抜、10本入り・袋入り）の2種類。それぞれ売り上げの10%をチャリティーにします。バッジとクリップマーカーは少し遅れて8月になってしまうと思いますが、いずれもゴルフ場を含めたすべての販売ルートに乗せる予定です。消費による支援ということですね。

── 会見の際に目標チャリティー総額を50億円としていましたが、その根拠は？

永田 昨年実績で年間のゴルファーのラウンド数は延べで9000万回なんです。その1ラウンドずつに例えば100円を寄付していただくとすると、それだけで90億円になります。ゴルフ界というのはそれほどの市場規模を持っているんですよ。ただ、今年はすでに震災の影響でかなりラウンド数が減っており、また、趣旨に同調して頂けない方も、もちろんいらっしゃるでしょう。そのあたりを考えての50億円です。

Green Tee Charity

日本のゴルフが、日本のチカラに。

JGAでの記者会見。さらに詳しい活動内容が報告された。

チャリティー販売される予定のバッジとクリップマーカー。

── 1ラウンドあたりいくら、というチャリティーは実現しつつあるのですか？

永田 全てが同じ形ではありませんが、ゴルフ場が様々な形でチャリティー活動を進めて下さっています。チャリティーボックスを置いたり、1ラウンドあたりいくら、という形だったり。実はこんなステッカー（P10写真）を作って皆さんにお配りしたんですよ。グリーン・ティー・チャリティーだとわかりやすいように。とにかく同じ傘の下で業界がひとつになっているのでやりやすい、と評価して頂いています。

── ゴルフ界のための支援とおっしゃいましたが、具体的にはどんなことを指しているのでしょう。

永田 被災したコースの状況は把握しています。完全に営業できなくなってしまったコースもあれば、被災したけれど営業はできているコースもある。逆に被災はしていないのに風評被害で営業にならないコースもあります。けれども、被災地のゴルフ関係者の皆さんが何を望んでおられるのか、そのあたりを、東北ゴルフ連盟の方々とも相談して、ゴルフ20団体の総意で支援金の使い道を決めたいと思いますし、きちっとした決定機関の設置も必要でしょう。

グリーン・ティー・チャリティーのロゴステッカーが各コースに配られた。

募金を呼びかけるポスター（下）と募金箱。グリーン・ティー・チャリティーのロゴマークが、ゴルフ界がひとつになっている証だ。

── 被災コースの復旧には時間がかかりそうですね。

永田 復旧させるだけでなく、ゴルフ界として復興へのビジョンをしっかり持たなくてはいけないのではないかと改めて感じています。これまで、我々は便利さを求める方向にばかり行ってしまったのではないか、と。例えば、今ではあたり前になった乗用カートの使用ですが、これも電力が限られている現在、一体どうなんだろうか。電磁誘導カートのコースは、誘導線が被災したりもしています。そもそもゴルフの原点は歩いてプレーすることなのに。

── 震災で日常生活があまりにも近代化していたことを見直す機会を得たのと同じことですね？

永田 そうです。同様に、きちんとビジョンを持っての復興が必要でしょう。

── 金銭的な寄付以外にグリーン・ティー・チャリティーに我々が参加できる方法はありますか？

永田 すでにいくつかの団体などからお問い合わせをもらって実施して頂いたのですが“グリーン・ティー・チャリティー～日本のゴルフが、日本のチカラに～”という名称での大会があちこちで行われています。

── 私たちが行うチャリティーイベントをグリーン・ティー・チャリティーの一部にできるということでしょうか？

永田 そうです。JGAにご連絡を頂いて活動の趣旨に賛同の上、名称を使用するための申込書に記入さえすれば大丈夫なようになっています。

── スクラッチ大会でなくてもいいのですか？

永田 もちろんです。アンダーハンディキャップの大会でも、ダブルペリアのコンペでもOKですよ。ぜひ、ご協力下さい。

── これからの活動を総括して下さい。

永田 とにかく震災後、スポーツをする、ゴルフをすること、観ることがはばかられるような状況があってはならないと思っています。そうならないためにも、ゴルフ界としてしっかり支援を行い、その活動を発信していかなくてはなりません。

── 日本のゴルフ界を支えるという意味でも事務局であるJGAとしては絶対にしなくてはならない仕事でもありますよね？

永田 そうです。JGAは公益財団法人を目指すということを理事会で決定したばかり。1000万人といわれるゴルファーのための仕事をしなくてはならないのは言うまでもありません。

あなたのゴルフが、
支援につながる

Green
Tee
Charity

日本のゴルフが、日本のチカラに。

日本ゴルフ界合同・震災復興支援チャリティープログラム